

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】国際開発論		
担当者(Instructors)	砂原 美佳	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

グローバル化が進む中、私たち一人ひとりがどのように国際社会に関わっているかを考えることは重要な課題です。この授業は、講師の国際協力実務経験に基づく「現場」のエピソードを織り込みながら、国際協力をめぐる歴史と理論について学び、日本の国際開発をめぐる課題について考えます。またプロジェクトの立案演習（グループ演習）を通じ、価値観の違う者同士が、同じ目標を目指し仕事をする難しさや楽しさを体験します。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式＋グループ演習

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	授業の計画・進め方について解説します。	<input type="checkbox"/>
第2回	日本の国際協力(1) 国際協力の主体・課題の変化	日本の国際協力の歴史について学びます。	<input type="checkbox"/>
第3回	日本の国際協力(2) 国際比較	日本の国際協力の特徴について考えます。	<input type="checkbox"/>
第4回	国際開発の理論と歴史(1)	国際開発が対象とする課題とそれに対する理論は時代とともに変化・発展を遂げています。事例を紹介しながら、第二次大戦直後に主流となった近代化論、従属論について解説します。	<input type="checkbox"/>
第5回	国際開発の理論と歴史(2)	1960年代から80年代以降注目されてきたグッドガバナンス論、平和構築論、人間の安全保障論について解説します。	<input type="checkbox"/>
第6回	国際開発の理論と歴史(3)	冷戦終結後の開発理論について解説します。	<input type="checkbox"/>
第7回	21世紀の国際協力 事例を通じて学ぼう：法と開発	国際協力機構(JICA)と法務省が約20年に渡り取り組んできた「カンボジア及びベトナムに対する民法・民事訴訟法支援」について、現地の写真や映像を見ながら学びます。	<input type="checkbox"/>
第8回	21世紀の国際協力 事例を通じて学ぼう	旬なトピック、あるいは受講生の関心の高いテーマを深く掘り下げます。	<input type="checkbox"/>
第9回	グループ演習(1) 国際協力プロジェクトを作ってみよう（演習に向けた準備）	国際協力機構他で用いられている開発プロジェクトの立案・実施・評価手法(PCM手法)の概要について理解します。以下のグループ演習では、基本的にPCM手法に則って作業を行います。	<input type="checkbox"/>
第10回	グループ演習(2) 関係者分析	プロジェクト立案の第一段階として、関係者を洗い出し、意見を集約する方法について学びます。	<input type="checkbox"/>
第11回	グループ演習(3) 問題分析	関係者が抱える問題を、原因と結果の関係に整理する方法について学びます。	<input type="checkbox"/>
第12回	グループ演習(4) 目的分析	問題が解決された姿を共有し、目的と手段の関係に整理する方法を学びます。	<input type="checkbox"/>
第13回	グループ演習(5) PDMの作成と発表準備	PDMとは、立案時に思い描いた景色を、様々な点を考慮しながら文字にした、プロジェクトの要約表です。これをもとに、グループ作業の内容を第三者に向けて発表します。	<input type="checkbox"/>
第14回	グループ発表	グループごとに、演習でつくったプロジェクトを発表します。発表後、PCM手法の問題点について検討します。	<input type="checkbox"/>
第15回	総合復習	これまでの内容を総括します。	<input type="checkbox"/>

## ■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

各回で説明するキーワードやテーマについて、次の講義までに各自で調べ、その内容を整理すること（4時間）。整理したものを文書として提出・または口頭で発表した場合、平常点として加点します。

#### ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

講義の中で共有します。

#### ■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 2018国際ビジネスDP1	国際開発の歴史、理論、アプローチを学び、日本の取り組みとその特徴について説明・理解できる。 開発をめぐる問題を多角的に捉え、解決への道筋を説明できる。【2017経営学部DP(1)】

#### ■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

#### 授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

筆記試験：30%  
レポート：20%

#### ■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし。プリントを配布します。	
2		
3		
4		
5		

#### ■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	講義内で紹介します。	
2		
3		
4		
5		